

目次

- 世界の原子力発電の現状
- 世界の原子力発電開発の現状（一覧表）
- 2013年の世界の主な動き
- 世界の運転中原子力発電所の設備容量推移
- 主要国の平均稼働率の推移
- 世界の原子力発電所における出力向上の現状
- 世界のMOX利用の現状
- 米国の主な新規原子力発電所プロジェクト（表）
- 世界の原子力施設における廃止措置への取り組みについてのアンケート調査結果

世界の原子力発電の現状

世界の原子力発電所は 426 基、約 3 億 8,600 万 kW に

— 3 基、約 190 万 kW 分の減少、新規導入国の計画進展、建設中原発の 6 割がアジア地域に—

本資料は、毎年当協会が世界の電力会社等から得たアンケートの回答などに基づき、とりまとめているもので、今回は 2014 年 1 月 1 日現在のデータを集計したものです。

新規導入国を含め、世界の原子力発電開発は継続的に拡大、建設中基数は過去 20 年で最多

——ベラルーシで初の原子炉着工、バングラデシュの導入計画が進展——

2000 年代に欧米を中心に復活の兆しを見せていた世界の原子力発電開発は、福島第一原子力発電所事故をきっかけに欧州のいくつかの国が脱原子力政策に立ち返るなど、新たな停滞期を迎えるかに見えた。しかし、2013 年中に世界では、米国の新たな許認可体制下で 35 年ぶりに 4 基が新規に本格着工したほか、新設計画に関する審査・承認の一時凍結を 2012 年に解除した中国で本格着工や営業運転の開始が相次いだ。また、韓国でも新規着工があったほか、インドの新規サイトではロシアから導入した軽水炉が送電を開始、別サイトでは国産炉の起工式も行われた。こうした動きにより、2014 年 1 月 1 日現在で世界の建設中原子炉の基数は 1992 年以降最多の 81 基を数えるなど、世界の原子力発電開発は福島第一原子力発電所事故後も継続的に拡大している。また、このうちアジアで建設中の原子力発電所は中国の 31 基を含めて世界の 6 割強を占めるなど、日本における停滞とは対照的に同地域を中心とする伸張は堅実な動きを見せている。特に、原子力の新規導入を目指す国々での進展は目覚ましく、イランで最初の商業炉が約 2 年間の試運転を経て、晴れて営業運転の開始を宣言。2012 年から導入初号機の建設作業を進めるアラブ首長国連邦 (UAE) は 2 基目の建設工事を開始した。また、ベラルーシで同国初の原子炉建設で最初のコンクリート打設が実施されたほか、同様にロシアの資金援助を受けたバングラデシュでは設計契約の締結とともに起工式が行われた。

イランの初商業炉含め 3 基が営業運転開始、原子力発電利用国は 31 か国に増加

2014 年 1 月 1 日現在、世界で運転中の原子炉は 426 基、3 億 8,635 万 6,000kW となり、前回実績 (429 基、3 億 8,823 万 4,000kW) から 3 基、187 万 8,000kW 分減少した。2013 年中に世界で新たに営業運転を開始したのは合計 3 基で、内訳は中国の 2 基とイランの 1 基。イランにとっては初の商業炉運開ということで、原子力発電利用国は 31 か国・地域に増大した。一方、米国と日本 (※ 2014 年 1 月 31 日現在の数値) で合計 6 基の原子炉が閉鎖されたことから、マイナス 3 基という結果になった。

相変わらず中国における建設ラッシュの勢いが旺盛で、福島第一原子力発電所事故後、国務院は2012年10月、新設原子炉では第三世代炉の安全基準を厳守する方針を提示したが、2013年に新たに運開した寧徳1号機と紅沿河1号機は、中国広核集団有限公司（CGN）がフランスの技術をベースに開発した第世代改良型のCPR1000設計。今後しばらくの間は2000年代後半に着工したこれらの原子炉を中心に順次運開していくと見られている。実際、2013年後半には、同型の紅沿河2号機と陽江1号機が、さらには2014年に入って寧徳2号機が送電網への初併入を果たしている。

2011年からイランで試運転が続けられていたブシェール1号機は、建設作業を請け負ったロシアのエンジニアリング企業からイラン側に正式に引き渡し手続きが2013年9月に行われ、営業運転の開始が宣言された。

閉鎖された原子炉6基のうち4基は米国のもので、内訳は修理の長期化とトラブルによる維持費増加がそれぞれ閉鎖原因となったクリスタルリバー3号機とサン・オノフレ2、3号機、および供給地域内の電力卸売価格低下により経済性の悪化したキウオー二原発である。残りは日本の福島第一5、6号機となっている。

米国で35年ぶりの新規着工4基含め、建設中原子炉は世界合計で81基、約8,400万kWに増加

2013年中に新たに建設工事が始まったのは5か国における合計8基、946万kW分で、「建設中」原子炉の合計は81基、8,398万7,000kWとなった。営業運転の開始により3基が「運転中」のカテゴリーに移動したため、建設中の数値は前回実績（76基、7,771万7,000kW）から5基、627万kW分増加した計算だ。

新たに着工したのは、中国の田湾4号機（ロシア製PWR）、韓国の新ハヌル（新蔚珍）2号機で、両国ともに2年連続での新規着工になる。こうした状況を反映して、アジア地域における建設中原子炉の基数は51基と全体の6割以上を占めるにいたった。

また、2013年はベラルーシが同国初の原子炉建設を開始した。ロシアの低金利融資によりロシア製PWRを2基、ターンキー契約で建設する計画で、11月にコンクリート打設を行った1号機は2018年に運転を開始する予定。同様に、2012年に最初の1基で建設を開始したアラブ首長国連邦（UAE）でも、2013年はバラカ2号機の建設工事が始まった。残りの4基は米国で35年ぶりの新規着工で、ボーグルとV・Cサマー両原発サイトの各2基。新たな許認可システムの下で建設される最初のものとなるだけでなく、同国初の第三世代設計となるウェスチングハウス（WE）社製AP1000が採用されている。

中国のCAP1400、ロシアの小型高速炉が計画入り、世界全体で100基、約1億1,300万kWが計画

具体的な進展が見込まれる新設計画としては、2013年中に新たに7か国の14基、1,370万kW分が判明した。これに対して、新たな着工により「建設中」カテゴリーに移った8基、および中止になった日本の浪江・小高計画、ロシアの計画リストから削除されたツェントラル3、4号機計画を前回実績（97基、1億1,091万kW）から差し引くとともに、既存の建設計画における出力修正を考慮すると「計画中」の原子炉は3基、201万kW分が増加。合計で100基、1億1,292万kWとなった。

< 参 考 >

世界の原子力発電開発の現状

2014年1月1日現在、(万kW、グロス電気出力)
As of January 1, 2014 (10MWe, Gross Output)

国・地域	運転中 In Operation		建設中 Under Construction		計画中 Planned		合計 Total		Country Region
	出力 Output	基数 Units	出力 Output	基数 Units	出力 Output	基数 Units	出力 Output	基数 Units	
1 米国	10,328.4	100	560.0	5	626.0	5	11,514.4	110	U.S.A.
2 フランス	6,588.0	58	163.0	1			6,751.0	59	France
3 日本*	4,426.4	48	442.1	4	1,158.2	8	6,026.7	60	Japan*
4 ロシア	2,519.4	29	1,026.0	11	1,744.5	17	5,289.9	57	Russia
5 韓国	2,071.6	23	660.0	5	560.0	4	3,291.6	32	Korea
6 中国	1,478.8	17	3,386.6	31	2,616.8	23	7,482.2	71	China
7 カナダ	1,424.0	19					1,424.0	19	Canada
8 ウクライナ	1,381.8	15	200.0	2			1,581.8	17	Ukraine
9 ドイツ	1,269.6	9					1,269.6	9	Germany
10 英国	1,086.2	16			326.0	2	1,412.2	18	United Kingdom
11 スウェーデン	942.8	10					942.8	10	Sweden
12 スペイン	739.7	7					739.7	7	Spain
13 ベルギー	619.4	7					619.4	7	Belgium
14 台湾	524.8	6	270.0	2			794.8	8	Taiwan
15 インド	478.0	20	530.0	7	670.0	6	1,678.0	33	India
16 チェコ	415.2	6			200.0	2	615.2	8	Czech
17 スイス	346.0	5					346.0	5	Switzerland
18 フィンランド**	286.0	4	172.0	1	220.0	2	678.0	7	Finland**
19 ブルガリア	200.0	2			100.0	1	300.0	3	Bulgaria
20 ハンガリー	200.0	4					200.0	4	Hungary
21 ブラジル	199.2	2	140.5	1			339.7	3	Brazil
22 スロバキア	195.0	4	94.2	2			289.2	6	Slovakia
23 南アフリカ	194.0	2					194.0	2	South Africa
24 ルーマニア	141.0	2	211.8	3			352.8	5	Romania
25 メキシコ	136.4	2					136.4	2	Mexico
26 アルゼンチン	100.5	2	74.5	1			175.0	3	Argentina
27 イラン	100.0	1			38.5	1	138.5	2	Iran
28 パキスタン	78.7	3	68.0	2	220.0	2	366.7	7	Pakistan
29 スロベニア	72.7	1					72.7	1	Slovenia
30 オランダ	51.2	1					51.2	1	Netherlands
31 アルメニア	40.8	1					40.8	1	Armenia
32 アラブ首長国連邦			280.0	2	280.0	2	560.0	4	UAE
33 ベラルーシ			120.0	1	120.0	1	240.0	2	Belarus
34 トルコ					920.0	8	920.0	8	Turkey
35 インドネシア					400.0	4	400.0	4	Indonesia
36 ベトナム					400.0	4	400.0	4	Vietnam
37 バングラデシュ					200.0	2	200.0	2	Bangladesh
38 エジプト					187.2	2	187.2	2	Egypt
39 リトアニア					138.4	1	138.4	1	Lithuania
40 ヨルダン					100.0	1	100.0	1	Jordan
41 イスラエル					66.4	1	66.4	1	Israel
42 カザフスタン					N/A	1	N/A	1	Kazakhstan
合 計 (前年値)	38,635.6 (38,823.4)	426 (429)	8,398.7 (7,771.7)	81 (76)	11,292.0 (11,091.0)	100 (97)	58,326.3 (57,686.1)	607 (602)	Total (previous year)

N/A; Not Available (The output is unknown. 出力不明)

* 日本については、2014年1月31日現在のデータ
Figures for Japan dated 2014.1.31.

** フィンランドの計画中のうち1基は出力不確定のため、仮定して集計。

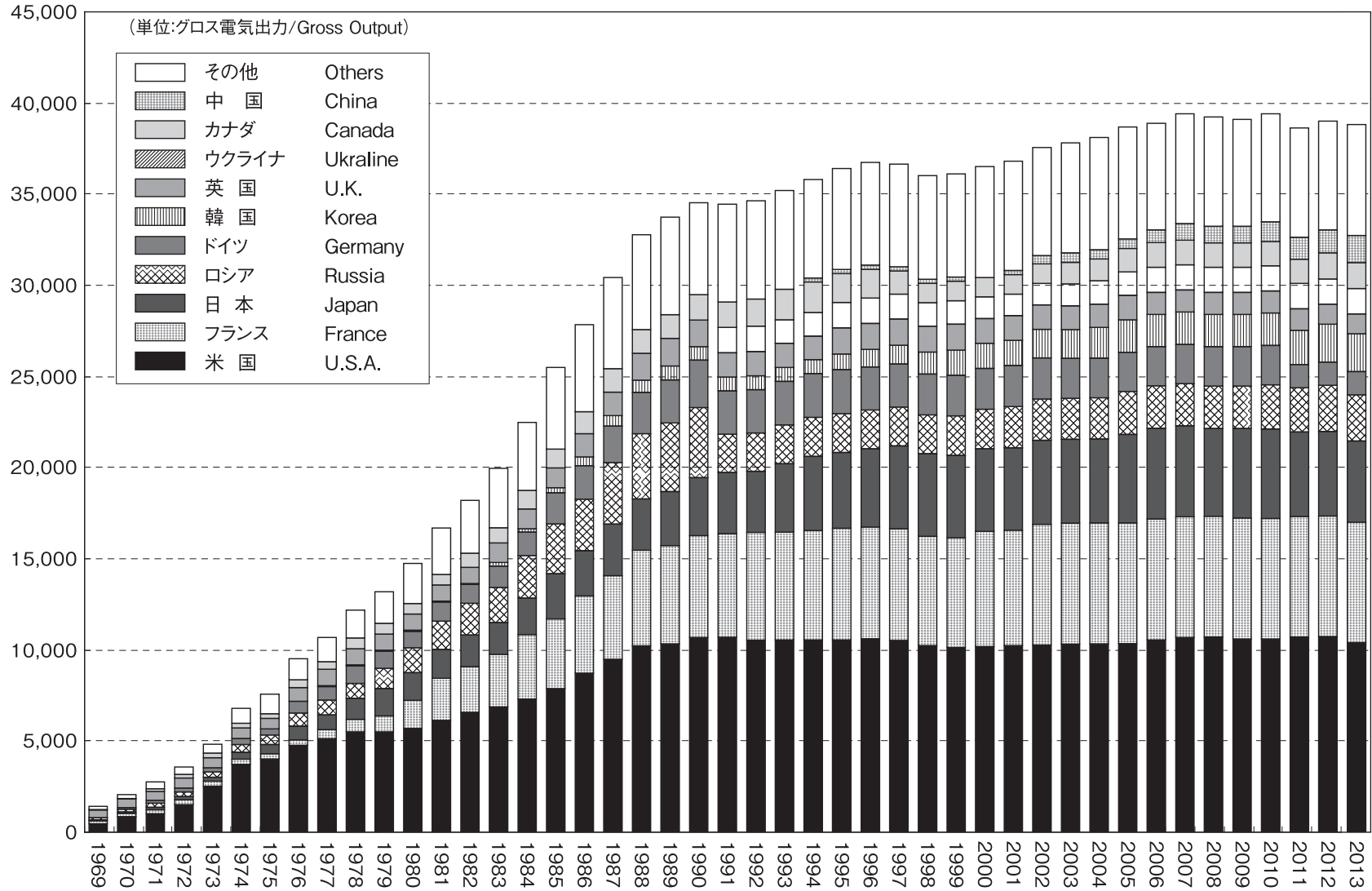
The output of 1 planned unit of Finland is temporary value (because of not being decided specified).

2013年の主な動き

営業運転開始	中 国	寧徳1号機	(PWR、108万kW)	4月15日
		紅沿河1号機	(PWR、111万kW)	6月6日
	イラン	ブシェール1号機	(PWR、100万kW)	9月22日
2か国 3基・319万kW				
着 工	ベラルーシ	オストロバツ1号機	(PWR、120万kW)	11月6日
	中 国	田湾4号機	(PWR、106万kW)	9月27日
	韓 国	新ハヌル(新蔚珍)2号機	(PWR、140万kW)	6月19日
	UAE	バラカ2号機	(PWR、140万kW)	5月28日
	米 国	V・Cサマー2号機	(PWR、110万kW)	3月9日
		V・Cサマー3号機	(PWR、110万kW)	11月2日
		A・Wボーグル3号機	(PWR、110万kW)	3月12日
		A・Wボーグル4号機	(PWR、110万kW)	11月19日
5か国 8基・946万kW				
計画入り	バングラデシュ	ルプール1号機	(PWR、100万kW)	
		ルプール2号機	(PWR、100万kW)	
	ブルガリア	コズロドイ7号機	(PWR、100万kW)	
	中 国	栄成石島湾	(PWR、140万kW)	
	インド	ゴラクプール1号機	(PHWR、70万kW)	
		ゴラクプール2号機	(PHWR、70万kW)	
	パキスタン	カラチ2号機	(PWR、110万kW)	
		カラチ3号機	(PWR、110万kW)	
	ロシア	ディミトロフグラード	(FBR、10万kW)	
		コラII-1号機	(PWR、120万kW)	
	トルコ	シノップ1号機	(PWR、110万kW)	
		シノップ2号機	(PWR、110万kW)	
		シノップ3号機	(PWR、110万kW)	
		シノップ4号機	(PWR、110万kW)	
7か国 14基・1,370万kW				
閉 鎖	米 国	クリスタルリバー3号機	(PWR、89万9,000kW)	2月5日
		キウオーニ	(PWR、59万kW)	5月7日
		サンオノフレ2号機	(PWR、112万7,000kW)	6月7日
	日 本	サンオノフレ3号機	(PWR、112万7,000kW)	6月7日
		福島第一・5号機	(BWR、78万4,000kW)	2014年1月31日
		福島第一・6号機	(BWR、110万kW)	2014年1月31日
2か国 6基・562万7,000kW				
(計画中から削除)	ロシア	ツェントラル3号機	(PWR、120万kW)	
		ツェントラル4号機	(PWR、120万kW)	
	日 本	浪江・小高	(BWR、82万5,000kW)	
2か国 3基・322万5,000kW				

世界の運転中原子力発電所の設備容量推移

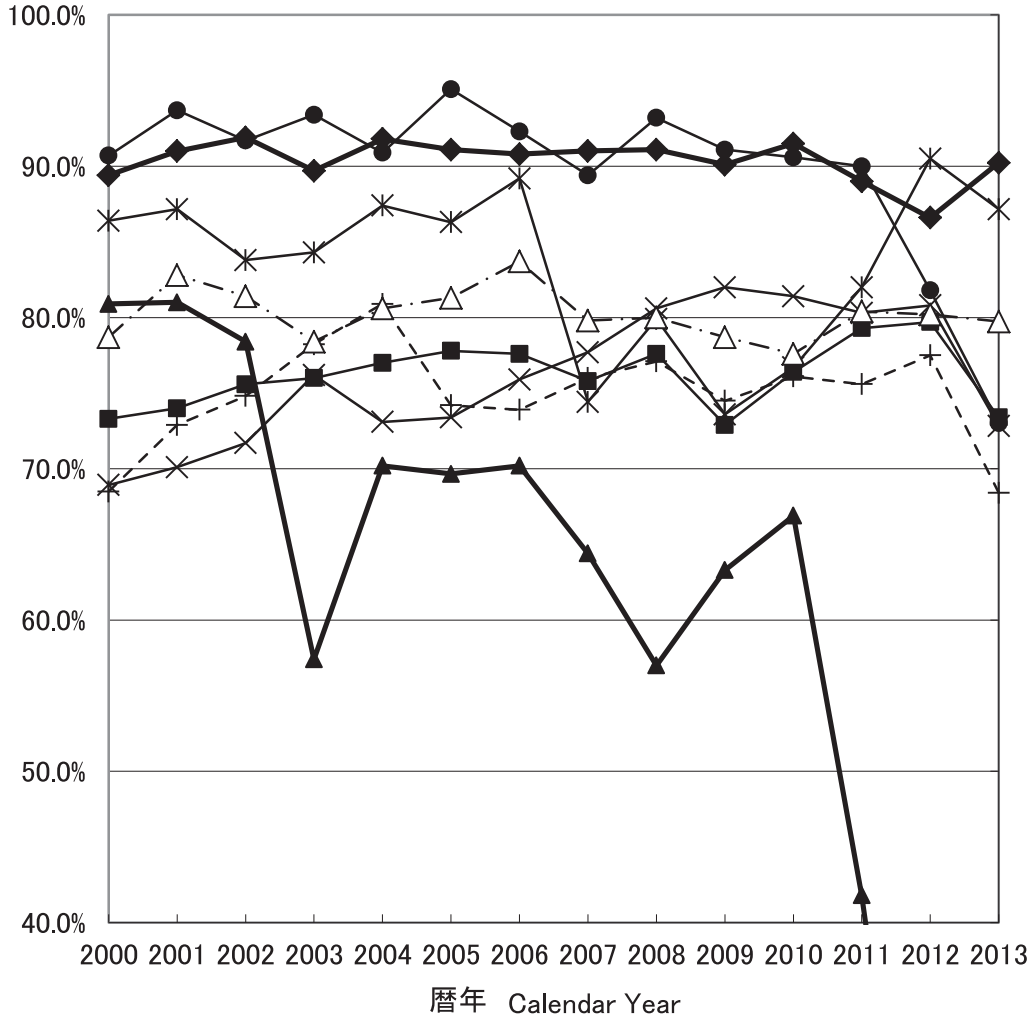
(万kW/10MW)



(年/year)

注 1 : 1991 年までのロシアのデータは旧ソ連のデータに基づく。
 2 : 中国のデータは 1994 年より挿入
 Note 1 : Data of Russia through 1991 are based on data ex.-U.S.S.R.
 2 : Data of China have been included since 1994.

主要国の平均稼働率の推移



- ◆ 米国 U.S.
- フランス France
- ▲ 日本 Japan
- × ロシア Russia
- * ドイツ Germany
- 韓国 Korea
- +- ウクライナ Ukraine
- △- カナダ Canada

出典 Source: IAEA-PRIS

世界の原子力発電所における出力向上の現状

2014年1月1日現在
As of January 1, 2014

国名 Country	発電所	炉型 Reactor Type	出力向上前(MW) Electric capacity before uprating		出力向上後(MW) Electric capacity after uprating		終了年 Completed year	Name of the plant
			ネット出力 Net output	グロス出力 Gross output	ネット出力 Net output	グロス出力 Gross output		
中国 China	嶺澳 1 号機	PWR	950	990	960	1,000	2011	LINGAO-1
	嶺澳 2 号機	PWR	950	990	960	1,000	2011	LINGAO-2
チェコ Czech	ドコバニ 1 号機	PWR	456	460	500	510	2011	DUKOVANY-1
	ドコバニ 2 号機	PWR	456	460	500	510	2012	DUKOVANY-2
	テメリン 1 号機	PWR	965	1,013	1,000	1,055	2013	TEMLIN-1
	テメリン 2 号機	PWR	965	1,013	1,000	1,055	2013	TEMLIN-2
フィンランド Finland	ロビーサ 1 号機	PWR	488	510	496	520	2012	LOVIISA-1
	ロビーサ 2 号機	PWR	488	510	496	520	2012	LOVIISA-2
	オルキルオト 1 号機	BWR	860	890	880	910	2010	OLKILUOTO-1
	オルキルオト 2 号機	BWR	860	890	880	910	2011	OLKILUOTO-2
ドイツ Germany	エムスラント	PWR	1,292	1,363	1,329	1,400	2000	EMSLAND
	グンドレミンゲン B 号機	BWR	1,240	1,300	1,284	1,344	1994	GUNDREMMINGEN-B
	グンドレミンゲン C 号機	BWR	1,252	1,308	1,288	1,344	1995	GUNDREMMINGEN-C
	フィリップスブルク 2 号機	PWR	1,392	1,458	1,402	1,468	2010	PHILIPPSBURG-2
オランダ Netherlands	ボルセラ	PWR	452	481	484	512	2006	BORSSELE
スロバキア Slovakia	ボフニチェ 3 号機	PWR	405	440	470	505	2010	BOHUNICE-3
	ボフニチェ 4 号機	PWR	405	440	470	505	2010	BOHUNICE-4
	モホフチェ 1 号機	PWR	405	440	435	470	2008	MOCHOVCE-1
	モホフチェ 2 号機	PWR	405	440	435	470	2008	MOCHOVCE-2
スロベニア Slovenia	クルスコ	PWR	666	727	688	727	2011	KRSKO
スペイン Spain	アルマラス 1 号機	PWR	-	1,035	-	1,049	2013	ALMARAZ-1
	アルマラス 2 号機	PWR	-	980	-	1,044	2012	ALMARAZ-2
	アスコ 1 号機	PWR	-	1,028	-	1,032	2003	ASCO-1
	アスコ 2 号機	PWR	-	1,014	-	1,027	2001	ASCO-2
	コフレンテス	BWR	-	1,085	-	1,092	2004	COFRENTES
	サンタ・マリアデガローニャ	BWR	440	460	446	466	1998	SANTA MARIA DE GARONA
	トリリョ 1 号機	PWR	-	1,000	-	1,066	1992	TRILLO-1
スウェーデン Sweden	バンデリヨス 2 号機	PWR	-	1,057	-	1,087	2001	VANDELLOS-2
	フォルスマルク 1 号機	BWR	961	999	1,014	1,049	2005	FORSMARK-1
	フォルスマルク 2 号機	BWR	951	989	1,014	1,038	2006	FORSMARK-2
	フォルスマルク 3 号機	BWR	1,155	1,197	1,190	1,227	2004	FORSMARK-3
	オスカーシャム 1 号機	BWR	487	-	495	-	2007	OSKARSHAMN-1
	オスカーシャム 2 号機	BWR	615	-	661	-	2009	OSKARSHAMN-2
	オスカーシャム 3 号機	BWR	1,195	-	1,450	-	2009	OSKARSHAMN-3
リングハルス 1 号機	BWR	865	897	878	916	2012 ^{*1}	LINGHALS-1	
リングハルス 4 号機	PWR	934	981	940	990	2011 ^{*2}	LINGHALS-4	

国名 Country	発電所	炉型 Reactor Type	出力向上前(MW) Electric capacity before uprating		出力向上後(MW) Electric capacity after uprating		終了年 Completed year	Name of the plant
			ネット出力 Net output	グロス出力 Gross output	ネット出力 Net output	グロス出力 Gross output		
スイス Switzerland	ベツナウ 1号機	PWR	350	364	365	380	1996	BEZNAU-1
	ベツナウ 2号機	PWR	350	364	365	380	2000	BEZNAU-2
	ゲスゲン	PWR	970	1,020	985	1,035	2009	GÖSGEN
	ライブシュタット	BWR	1,165	-	1,220	-	2012	LEIBSTADT
	ミュレベルク	BWR	355	372	373	390	2008 ^{*3}	MÜHLEBERG
台湾 Taiwan	金山 1号機	BWR	610	642	634	666	2012	CHINSHAN-1
	金山 2号機	BWR	609	641	633	665	2012	CHINSHAN-2
	國聖 1号機	BWR	948	985	963	1,000	2007	KUOSHENG-1
	國聖 2号機	BWR	948	985	953	990	2007	KUOSHENG-2
	馬鞍山 1号機	PWR	890	951	902	963	2009	MAANSHAN-1
	馬鞍山 2号機	PWR	890	951	902	963	2008	MAANSHAN-2
米国 ^{*5} United States of America	ブラウズフェリー 1号機	BWR	1,079	1,104	1,133	1,158	2007	BROWNS FERRY-1
	ブラウズフェリー 2号機	BWR	1,079	1,104	1,136	1,161	1999	BROWNS FERRY-2
	ブラウズフェリー 3号機	BWR	1,079	1,104	1,136	1,161	1998	BROWNS FERRY-3
	ブランズウィック 1号機	BWR	820	-	938	-	2004	BRUNSWICK-1
	ブランズウィック 2号機	BWR	811	-	937	-	2005	BRUNSWICK-2
	カルバートクリフス 1号機	PWR	-	900	-	912	2010	CALVERT CLIFFS-1
	カルバートクリフス 2号機	PWR	-	900	-	912	2009	CALVERT CLIFFS-2
	カトーバ 1号機	PWR	1,129	-	1,140	-	2013	CATAWBA-1
	カトーバ 2号機	PWR	1,129	-	1,150	-	2013	CATAWBA-2
	コロンビア	BWR	1,105	1,185	N/A ^{*4}	N/A ^{*4}	N/A ^{*4}	COLUMBIA
	コマンチェピーク 1号機	PWR	1,150	1,161	1,205	1,250	2011	COMANCHE PEAK-1
	コマンチェピーク 2号機	PWR	1,150	1,161	1,195	1,241	2011	COMANCHE PEAK-2
	グランドガルフ 1号機	BWR	1,133	-	1,443	-	2012	GRAND GULF-1
	ホープクリーク 1号機	BWR	1,171	-	-	1,286	2007	HOPE CREEK-1
	ナインマイルポイント 2号機	BWR	-	1,156	-	1,329	2012	NINE MILE POINT-2
	ロバート・E・ギネイ	PWR	-	507	-	592	2006	ROBERT E.GINNA
セコヤー 1号機	PWR	1,150	1,189	1,177	1,216	2004	SEQUOYAH-1	
セコヤー 2号機	PWR	1,151	1,190	1,194	1,190	2005	SEQUOYAH-2	
ワッツ・バー 1号機	PWR	1,172	1,213	1,179	1,230	2007	WATTS BAR-1	

*1 正式には2013年1月1日から Valid from 01/01/2013

*2 正式には2012年1月1日から Valid from 01/01/2012

*3 正式には2009年1月1日から Valid from 01/01/2009

*4 N/A: データなし not available

*5 米国では多数の発電所が出力向上を実施しているが、本表にはアンケート回答による判明分のみを掲載している。

In U.S.A many nuclear power plants have been implementing various types of power uprating. But the above list shows only replied data

世界の MOX 利用の現状

国 名	原子力発電所	炉 型 (Reactor Type)	グロス出力 (MW) (Gross Output)	装荷開始 (Start of Loading)	累積装荷体数 (2013年末時点) (Cumulative Number of MOX Fuel Assemblies As of the End of 2013)	Plant Name
ベルギー (Belgium)	チアンジュ2号機	PWR	1,055	1995 to 2003	0	Tihange-2
	ドール3号機	PWR	1,056	1995	96	Doel-3
フランス (France)	フェニックス	FBR	140	1973	} 3,500 in total	Phénix
	サンローラン・デゾー B1号機	PWR	956	1987		St. Laurent-Des-Eaux-B1
	サンローラン・デゾー B2号機	PWR	956	1988		St. Laurent-Des-Eaux-B2
	グラブリーヌ3号機	PWR	951	1989		Gravelines-3
	グラブリーヌ4号機	PWR	951	1989		Gravelines-4
	ダンピエール1号機	PWR	937	1990		Dampierre-1
	ダンピエール2号機	PWR	937	1993		Dampierre-2
	ルブレイエ2号機	PWR	951	1994		Le Blayais-2
	トリカスタン2号機	PWR	955	1996		Tricastin-2
	トリカスタン3号機	PWR	955	1996		Tricastin-3
	トリカスタン1号機	PWR	955	1997		Tricastin-1
	トリカスタン4号機	PWR	955	1997		Tricastin-4
	グラブリーヌ1号機	PWR	951	1997		Gravelines-1
	ルブレイエ1号機	PWR	951	1997		Le Blayais-1
	ダンピエール3号機	PWR	937	1998		Dampierre-3
	グラブリーヌ2号機	PWR	951	1998		Gravelines-2
	ダンピエール4号機	PWR	937	1998		Dampierre-4
	シノン B4号機	PWR	954	1998		Chinon-B4
	シノン B2号機	PWR	954	1999		Chinon-B2
	シノン B3号機	PWR	954	1999		Chinon-B3
シノン B1号機	PWR	954	2000	Chinon-B1		
グラブリーヌ6号機	PWR	951	2008	Gravelines-6		
グラブリーヌ5号機	PWR	951	(2010)	Gravelines-5		
ドイツ (Germany)	オブリッヒハイム ¹	PWR	357	1972	78	Obrigheim
	ネッカー1号機 ²	PWR	840	1982	32	Necker-1
	ウンターベーザー ²	PWR	1,410	1984		Unterweser
	グラーフエンラインフェルト	PWR	1,345	1985		Grafenrheinfeld
	フィリップスブルグ2号機	PWR	1,458	1989	228	Philippsburg-2
	グローンデ	PWR	1,430	1988	132	Grohnde
	ブロックドルフ	PWR	1,440	1988		Brokdorf
	グンドレミンゲン C号機	BWR	1,344	1995	376	Gundremmingen-C
	グンドレミンゲン B号機	BWR	1,344	1996	532	Gundremmingen-B
	イザール2号機	PWR	1,475	1998	48	Isar-2
	ネッカー2号機	PWR	1,400	1998	88	Necker-2
	エムスラント	PWR	1,400	2004	108	Emsland

2014年1月1日現在
As of January 1, 2014

インド (India)	タラプール1号機	BWR	160	1994		Tarapur TAPS-1	
	タラプール2号機	BWR	160	1995		Tarapur TAPS-2	
	PFBR	FBR				PFBR	
オランダ (Netherlands)	ボルセラ	PWR	512	(2014)		Borssele	
ロシア (Russia)	ベロヤルスク3号機(BN-600)	FBR	600	2003		Beloyarsk-3	
スイス (Switzerland)	ベツナウ1号機	PWR	380	1978	124	} 232	Beznau-1
	ベツナウ2号機	PWR	380	1984	108		Béznau-2
	ゲスゲン	PWR	1,020	1997 to 2012	48		Gosgen
	ライプシュタット	BWR	1,200	装荷認可(Licensed)			Leibstadt
	ミューレベルク	BWR	372	装荷認可(Licensed)			Muhleberg
スウェーデン (Sweden)	オスカーシャム1号機	BWR	465	装荷認可(Licensed)		Oskarshamn-1	
	オスカーシャム2号機	BWR	630	装荷認可(Licensed)		Oskarshamn-2	
	オスカーシャム3号機	BWR	1,205	装荷認可(Licensed)		Oskarshamn-3	
米 国 (U.S.A)	カトーバ1号機	PWR	1,205	2005 ³	4	Catawba-1	
	ロバート・E・ギネイ	PWR	602	1980 ⁴ to1985	4	Robert E. Ginna	
日 本 (Japan)	ふげん ⁵	ATR	165	1981	772	Fugen	
	もんじゅ	FBR	280	1994		Monju	
	玄海3号機	PWR	1,180	2009	32	Genkai-3	
	伊方3号機	PWR	890	2010	16	Ikata-3	
	高浜3号機	PWR	870	2010	8	Takahama-3	
	高浜4号機	PWR	870	装荷認可(Licensed)		Takahama-4	
	福島第一3号機 ⁶	BWR	784	2010	32	Fukushima I -3	
	柏崎刈羽3号機	BWR	1,100	装荷認可(Licensed)		Kashiwazaki Kariwa-3	
	浜岡4号機	BWR	1,137	装荷認可(Licensed)		Hamaoka-4	
	島根2号機	BWR	820	装荷認可(Licensed)		Shimane-2	
	女川3号機	BWR	825	装荷認可(Licensed)		Onagawa-3	
	泊3号機	PWR	912	装荷認可(Licensed)		Tomari-3	
	大間 ⁷	BWR	1,383	装荷認可(Licensed)		Ohma	

1:2005年5月11日, 閉鎖(CD)

2:2011年8月7日, 閉鎖(CD)

3:2005年, 4体の燃料集合体が装荷された。装荷年数は約4年。

4:1980年, 4体の燃料集合体が装荷された。

5:2003年3月29日, 閉鎖(CD)

6:2012年4月19日廃止

7:建設中

※データはアンケート回答による判明分のみを掲載。
The unknown data is not included.

米国の主な新規原子力発電所プロジェクト (2014年1月現在)

(一社)日本原子力産業協会 調べ

状態	電力会社・ コンソーシアム	サイト・原子力発電所名	炉型	基数	事前サイト許可 (ESP)	建設・運転一括認 可 (COL)	DOE融 資保証	発注・契約
建設中	サザン・ ニュークリア*3	アルビン・W・ボーグル3、4号機 (ジョージア州)	AP1000 (R-COL)	2	申請(2006.08) 許可取得(2009.8.26)	申請(2008.3.31) 認可取得(2012.2.9)	◎	2008.4.08 WE・ショーとエンジニアリング・資機材調達・建設(EPC)契約を締結、2009.3.17に州公益事業委が建設計画承認。運用は3号機2016年、4号機2017年の予定。2010.2.16、オバマ政権は融資保証第1号に選定、83.3億ドルを債務保証すると発表。 2012.2.9に新設計画として初めてCOLを取得。2013.3.12に3号機の、同年11.19に4号機で原子炉建屋のコンクリート打設を完了、本格着工した。 2014年2月、DOEは同計画に出資するジョーシア・パワー社、オーグルソフ社との融資保証交渉が完了し、両社分の融資保証65億ドルを付与することが正式決定したと発表した
	SCE&G/ サンティ・クーパー	バージル・C・サマー2、3号機 (サウスカロライナ州)	AP1000	2	COLを直接申請	申請(2008.3.31) 認可取得(2012.3.30)	○	2008.5.27、WE・ショーとEPC契約締結。2号機2016年、3号機2019年の運用を目指す。2009.7.28に同グループとメテ・エンジニアリング業務で契約。ショグループは2、3号機用の新しい変電設備をハイク・エレクトリック社に発注(2009.11.9)。2011.7.20、デューク・エナジー社が出資参加を表明。 2012.3.30にNRCからCOL取得。2013.3.9に新設計画として初めて2号機の、同年11月2日に3号機の原子炉建屋のコンクリート打設を完了、本格着工した。
	TVA	ワッツバー2号機 (テネシー州)	PWR (WE)	1	1988年以来、建設が中断されていたが(進捗率80%)、2007年8月に建設再開を決定、2008年1月に建設を再開、建設中。2011年6月に初装荷燃料の輸送を開始したが、同年8月、福島事故に伴う安全性改善作業により、完成が2014年にずれ込む可能性を示唆。2012年6月に、ワッツバー2号機の完成計画を優先し、同炉に燃料が装荷されるまではベルフォンテ1号機の建設を再開しない方針を表明。2013年10月末の発表で、総予算40億〜45億ドルの範囲内で2015年12月に完成する可能性が高まったと明言した。大規模な全体作業は最終段階を迎えており、起動前テストのためのシステム完成と準備に作業の焦点が移行しつつある。2013年11月、NRCは建設許可の満了日を2016年9月まで延長することを許可した。			
計画中	TVA	ベルフォンテ1号機 (アラバマ州)	PWR (B&W)	1	新規炉とは別に、TVAは2008.8.27、ベルフォンテの未完成の1、2号機(2006年キャンセル)の建設許可復活をNRCに申請。NRCは2009.2に復活を承認した後、2010.1に同許可を「建設延期状態」に移行。TVA理事会は2010.8に大型機器調達・追加エンジニアリング経費として約2.5億ドルを承認。同年10月に仏アレバ社に1号機用デジタルI&C系、B&W社に蒸気発生器2台の設計製造を発注。2011.8に理事会が1号機を完成させる決断を下す。126万kWのPWRを2020年に完成させるため、49億ドルの投入を決定。2012年にワッツバー2号機の完成を優先される方針を発表。2013年6月に理事会は2014年中の人員と予算を削減する計画を策定。将来的に建設する可能性を保持するため、設備は継続的にメンテナンスする方針。			
COL申請・契約済み	STPNOC	サウステキサス・プロジェクト 3、4号機(テキサス州)	ABWR (R-COL)	2	COLを直接申請	申請(2007.9.25)	○	東芝はサウステキサス・プロジェクト・ニュークリア・オペレーティング(STPNOC)と140万kW級ABWR2基の建設でEPC契約を締結(2009.2.25発表)。東京電力が融資保証適用を条件にNINA社(NRG88%、東芝12%)の持ち株会社株の10%引受を約束(2010.5)。福島事故を受け、NRGが投資打ち切りを発表、東芝がCOL審査の経費を継続負担する意向を表明(2011.4)2013.4現在、COL審査の 環境影響評価は完了 、安全審査はR-COLの6段階中、第4フェーズまで進展。
	プログレス・ エナジー*4	レビイー・カウンティ1、2号機 (フロリダ州レビイー郡)	AP1000	2	COLを直接申請	申請(2008.7.30)		2009.1.6、WE・ショーとプログレス・エナジー社がEPC契約を締結。契約額76.5億ドル。1号機は2016年、2号機は2017年の運転開始予定。プログレス社は工費削減のため、COLを取得するまで建設前作業を先送りし、建設期間を延長へ(2010.10)。2011年のコスト見積りで州公益委は建設前コストの回収を承認(2011.11)。2013.4現在、COL審査の 環境影響評価は完了 。安全審査は最終SERフェーズまで進展。2013年8月、COL取得審査の遅れと、州法改正により建設期間中の一部コスト回収が不透明になってきたことから、2009年のEPC契約を解除する方針を表明。COL取得の努力は今後も続ける考えを強調した。
COL申請済み	ルミナント	コマンチェピーク3、4号機 (テキサス州)	US- APWR (R-COL)	2	COLを直接申請	申請(2008.9.19)		三菱重工とルミナントは2009.1.30、US-APWR2基建設で建設運営の合弁会社「コマンチェピーク・ニュークリア・パワー」(ルミナント88%、MHI12%)を設立。両社はUS-APWR・2基の供給交渉開始で合意、MOUに調印(2009.7)。三菱重工はUS-APWRの設計認証(DC)取得を2013年に見込み、2012.5にノースカロライナ州シャーロットにエンジニアリング拠点を設立。COL審査の 環境影響評価は完了 、安全審査はR-COLとしての6段階中、第2フェーズまで進展。2013年11月、ルミナント社は COL審査の一時保留 をNRCに要請。三菱重工の米国法人MNESは今後もUS-APWRの設計認証(DC)取得活動を継続するもの、完了日程は数年程度延期される模様。三菱重工は今後の優先事業を日本国内の既存炉再稼働に、MNESは米国内の既存炉向け機器やサービスにシフトする方針。
	ユニスター*2	カルバートクリフス3号機 (メリーランド州)	U.S. EPR (R-COL)	1	COLを直接申請	一部申請 (2007.7.25) 申請完了 (2008.3.17)	○	リーランド州公益委が建設計画を承認(2009.6.29)。アレバ社は米ベクトル社とEPC契約のタム・シートに署名。コンステレーションは政府融資保証適用の際に政府に支払う信用助成コストが高額すぎるとして、2010.10に計画からの撤退を決定、ユニスター社における仏電力(EDF)との合弁も解消へ(2010.11)NRCは2012.8と2013.3に、「100%外国資本の企業にCOLを発給しない」と裁定。ユニスター社は米国籍の出資企業を探して改訂版COLを申請する方針を表明(2013.3)。 COLの環境審査は2011年に完了した が、2013年7月の報道によると、NRCは安全審査のマイルストーンを再検討中。
	DTEエナジー	エンリコ・フェルミ3号機 (ミシガン州)	ESBWR (R-COL)	1	COLを直接申請	申請(2008.9.18)		2008.6.18 GEHはDTEがESBWRの採用を決定と発表。2010.10、GEHは同設計がNRCの設計認証(DC)審査で安全性評価に合格したと発表。2013.1、NRCスタッフは 最終・環境影響声明書(FEIS)を発行した 。2013年7月の報道で、NRCの予算上の制約が安全審査の完了を遅らせており、修正スケジュールでは新たな安全評価報告書(SER)が2014年12月に発行され、最終SERは2015年7月に発行されるとのこと。

COL申請済み	ドミニオン・エナジー	ノースアナ3号機 (バージニア州)	ESBWR	1	申請(2003.9) 許可取得(2007.11.20)	申請(2007.11.27)	ドミニオンはESBWRでのEPC契約条件が折り合わなかったと発表(2009.1.9)。三菱重工製の170万kWのUS-APWRへの変更を決定(2010.5)。2013.4現在、環境影響評価は第2フェーズ、安全審査は第1フェーズに進展。2013年4月25日、ドミニオンはUS-APWRの設計認証審査が遅れる一方、ESBWRは最終設計承認(FDA)を取得するなど、進展が早いことから、 ESBWRを再採用 すると発表。GE日立社とエンジニアリング作業とCOLの取得支援で合意。2013年のアンケート調査表に「建設するか否かの判断はCOL取得後に下す」と回答。
	デューク・エナジー	ウィリアム・ステイツ・リーIII 1、2号機(サウスカロライナ州)	AP1000	2	COLを直接申請	申請(2007.12.13)	1号機2021年、2号機2023年運開の計画へ約3年延期。2013.4現在、COLの環境影響評価は最終EISフェーズに、安全審査は4段階のうち第2フェーズまで進展。2013年7月下旬、NRCは予算的な制約等により、COL発給が当初予定から3年遅れの2016年になるとデューク社に伝えた。
	フロリダ・ パワー&ライト	ターキーポイント6、7号機 (フロリダ州)	AP1000	2	COLを直接申請	申請(2009.6.30)	6号機は2018年、7号機2020年の運開目標。総コスト121~178億ドル。フロリダ州公益事業委(PSC)は2008.4に最終承認。電力料金値上げをPSCに却下されたため、FPLが6、7号機の建設計画を一時中断(2010.1.14)。PSCはFPLが2011年から6、7号機の建設前コストを回収することを承認(2010.9.8)。2011年のコスト見積りでもPSCは建設前コストの回収を承認(2011.10)2013.4現在、COL審査の環境影響評価は4段階中、第2フェーズに、安全審査は第1フェーズまで進展。継続してCOL取得を目指すと言。
	PPL (ユニスター*2)	ベルバンド1号機 (ペンシルベニア州)	U.S. EPR	1	COLを直接申請	2008.10.10に申請	サスケハナ原発近郊。DOEに融資保証も申請。政府の融資保証および建設パートナーが得られるまで計画を実行しないと報道あり(2012.1)2013.4現在、COL審査の環境影響評価は4段階中、第2フェーズに、安全審査は第1フェーズまで進展。
	プロGRESS・ エナジー*4	シアロン・ハリス2、3号機 (ノースカロライナ州)	AP1000	2	COLを直接申請	申請(2008.2.19)	NRCによるCOL審査の環境影響評価は2013.4現在、4段階中、第2フェーズに、安全審査は第2フェーズまで進展。2013年5月、電力需要の伸び悩み等を理由に、 COL審査を一時保留 とする方針を決定。
COL審査は中断中	エンタジー (ニュースタート*1)	グランドガルフ3号機 (ミシシッピ州)	再検討中	1	申請(2003.10) 許可取得(2007.4)	申請(2008.2.27)	エンタジーはESBWRでのCOL申請を一時中断と発表(2009.1.9)。EPC契約条件で折り合わず。
	エンタジー	リバーバンド3号機 (ルイジアナ州)	再検討中	1	COLを直接申請	申請(2008.9.25)	エンタジーはESBWRでのCOL申請を一時中断と発表(2009.1.9)。EPC契約条件で折り合わず。
	アムレン (ユニスター*2)	キャラウェイ2号機 (ミズーリ州)	U.S. EPR	1	COL申請停止を発表 (2009.6.23)	申請(2008.7.24)	新州法のため中止と報道(WNN2009.04.24)。建設中利子を回収できないためNRCへのCOL申請停止を発表(2009.6.23)ESPの申請準備中。
	ユニスター*2	ナインマイルポイント3号機 (ニューヨーク州)	U.S.EPR	1	COLを直接申請	申請(2008.9.30)	NRCは2009.09.01、COL審査入りを1年延期する判断を下す。
	TVA (ニュースタート*1)	ベルフォンテ3、4号機 (アラバマ州)	AP1000	2	COLを直接申請	申請(2007.10.30)	
構想中	エクセロン	ビクトリア・カウンティ1、2号機 (テキサス州ビクトリア郡)	ABWR	2	申請(2010.3.25) 撤回(2012.8.28)	申請(2008.9) 撤回(2010.3.25)	ESBWRでCOL申請。技術的不確定性のためABWRに変更(2008.12)。政府の融資保証利用枠が限定的であるとしてCOLを取り下げESPを申請(2010.3.25)。2012.8、エクセロン社は原子力の経済性低下により、 新設計画を断念 すると発表した。
	エクセロン	クリントン (イリノイ州)	未定		申請(2003.9) 許可取得(2007.3.8)	未定	
	PSEG	セイラム (ニュージャージー州)	未定		申請(2010.5.26)	未定	COL申請前にESPを取得し、十分な検討期間中に先行計画の進展を見極めて計画決定へ(2010.5)。ESP審査の最終SERと最終EISが2014の半ばから年末にかけて発行される予定。
	ユニスター*2、アレバ デューク、USEC	パイクトン (オハイオ州)	U.S.EPR				2009.06.18、DOE所有のポーツマス・サイト(パイクトン)にEPRを含む「クリーン・エナジー・パーク」建設で州・地元と連携していくと発表
	ブルー・キャッスル・ ホールディング (BCH)	ブルー・キャッスル (ユタ州)	未定				2011.8にBCHがサイト特性調査の進展を公表。2基・300万kWの建設を検討中で、先にESPを申請し、その12~18か月後にCOLを申請する計画。2012.1にユタ州政府が水使用権を承認。2013.3、ユタ州公益事業委が原子炉新設の必要性を指摘。2013年12月、冷却水用水資源使用権を巡る訴訟で勝訴。2024年の営業運転開始を計画していると発表。

*1ニュースタート・エナジー・デベロップメントへの参加企業: コンステレーション・エナジー、デューク・エナジー、EDFインターナショナル・ノースアメリカ、エンタジー・ニュークリア、エクセロン・ジェネレーション、フロリダ・パワー&ライト社、プロGRESS・エナジー、サザン・カンパニー、SCANA社、テネシー峡谷開発公社。設立当初の目標である「AP1000の建設を想定した新設計画へのCOL発給」が達成されたとして、2012.6に解散。残余資産は加盟各社に再分配された。

*2ユニスター・ニュークリア・エナジー: コンステレーション・エナジーと仏電力公社の合弁会社。2010年10月にコンステレーション社は新設計画からの撤退を表明、合弁解消でEDFと合意した。

*3 2008.4.8 サザンはWE社とエンジニアリング・資機材調達・建設(EPC)契約を締結。米国では30年ぶりの新規発注

*4 COLの申請書はプロGRESS・エナジー社が2008年に提出したが、2011年1月、デューク・エナジー社がプロGRESS社の買収計画を発表。2012.7に買収手続きが完了した。

世界の原子力施設における廃止措置への取り組みについてのアンケート調査結果

福島第一原子力発電所事故後、原子力発電所の廃止措置への関心が高まっていることから、各国の原子力発電所・核燃料サイクル施設における廃止措置の現状と廃止措置の主要プロセス（使用済み燃料取り出し開始、一次系冷却配管切断開始、除洗開始、解体完了）の実施または実施予定年月、クリアランス物への再利用の有無、解体完了の場合土地の再利用の有無についてアンケート調査を実施した。

以下は、上記の質問に対する12か国46の原子力施設から得られた回答を、分類、整理したものである。

原子力発電所

国名	原子力発電所名	グロス電気出力 (万kw)	廃止措置の現状	廃止措置における主要プロセスの実施済み年月または実施予定年月			クリアランス物 (金属・コンクリート等) への再利用の有無	解体完了の場合、土地の再利用の有無
				使用済み燃料取り出し開始	一次系冷却配管切断開始	解体完了		
ベルギー	ドール-1,2	46.0	行動計画準備中					
ドイツ	カール	1.6	解体完了			2010年 済み		
	グロスベルツハイム	2.5	解体完了			1998年 済み		
	ニーダーアイヒバッハ KKN	10.6	解体完了			1998年 済み		
	グンドレミンゲン-A	25.2	解体中					
	カールスルーエ MZFR	5.8	解体中					
	ユーリッヒ AVR	1.5	解体中					
	THTR-300	30.8	安全貯蔵中					
	ミュルハイム・ゲールリッヒ	130.2	解体中					
	ラインスベルク	8.0	解体中					
	カールスルーエ KNK-II	2.1	解体中					
	リンゲン KWL	25.2	安全貯蔵中／解体申請中					
	ビュルガッセン	67.0	解体中					
	シュターデ	67.2	解体中					
	オブリヒハイム	35.7	解体中					
ノルト (グライフスバルト) -1,2,3,4,5	44.0	解体中						
以下の原子力発電所は福島第一原子力発電所事故を受けたドイツの「エネルギー政策転換」の結果として2011年に永久閉鎖となった。								
ドイツ	ブルンスビュッテル	80.6	廃止措置申請中	2016年第1四半期を予定	2018年第3四半期以降	2028年以降	処分する前に機器を売却できるか調整	現在のところ不明
	ウンターバーザー	141.0	廃止措置申請中					
	クリュンメル		廃止措置申請中					
	ビプリス-A	122.5	解体申請中	2014年10月				
	ビプリス-B	130.0	解体申請中	2015年10月				
	フィリップスブルグ-1	92.6	廃止措置申請中					
	ネッカー-1	84.0	解体撤去準備中 環境影響報告準備中	2014年	2018年頃	2032年 (予定)		
	イザール-1	91.2	廃止措置申請中					
スペイン	ホセカブレラ(ソリタ)	16.0	解体中	2009年6月	2012年5月		配管・機器の再利用計画なし	廃炉措置後の利用計画は未定
	バンデリョス-1	50.0	2003年6月30日、レベル2まで解体。25年の安全管理後完全に解体 (レベル3) ^{*1}	1990年			配管・機器の再利用計画なし	廃炉措置後の利用計画は未定
スイス	ミュレベルグ		運転中ではあるが、廃止措置計画作成開始	2020年	未決定	未決定	未決定	未決定
英国	ウィルファ-1		発電中	2016年1月	2016年	2025年頃に保護・保守への状態に入る	なし	ホライゾン・ニュークリア・パワー社がウィルファサイト隣接地に新規原子力発電所建設計画あり
	ウィルファ-2	56.5	永久運転停止	2016年1月	2012年		なし	
ブルガリア	コズロドイ-1,2	44.0	解体中	2003年3月				
	コズロドイ-3,4	44.0	解体準備中	2007年4月				
カザフスタン	FBR BN-350		廃止措置中	開始1999年、完了2003年			機器の再利用については安全管理期間終了までに決定	サイトの再利用については安全管理期間終了までに決定

国名	原子力発電所名	グロス電気出力(万kw)	廃止措置の現状	廃止措置における主要プロセスの実施済み年月または実施予定年月			クリアランス物(金属・コンクリート等)への再利用の有無	解体完了の場合、土地の再利用の有無
				使用済み燃料取り出し開始	一次系冷却配管切断開始	解体完了		
米国	キウオーニ	59.0	安全貯蔵中	2067年 解体開始		2073年までに更地に戻す予定	在庫品および不要機器の一部はほかのドミニオン社の原子力施設に転用または第三者に売却	なし
カナダ	ジェンティリー-2	67.5	解体準備中	2012年				
台湾	金山原子力発電所	63.6	廃止措置計画準備中	2025年12月	2027年12月	2029年12月	配管・機器は除染後再利用の予定	産業開発または発電施設のために再利用の予定
日本	中部電力 浜岡-1	54.0	第一段階 解体工事準備期間	全数を5号機へ搬出済	原子炉領域 周辺設備 解体撤去期間以降	2036年 (予定)		
	中部電力 浜岡-2	84.0		572体を5号機へ搬出済(2013年9月30日時点)				
	日本原子力研究開発機構 新型転換炉原型炉施設	16.5	解体中	原子炉からの取出し2003年4月7日～8月13日	2017年～ (予定)	2033年度 (予定)	再利用なし	解体完了後、土地についてはグリーンフィールド化。再利用の予定は現状なし。
	東京電力 福島第一-1	46.0	東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップに沿って、使用済み燃料プールの燃料取り出し、燃料デブリの取り出しに向け、現場作業ならびに必要な研究開発を進めている。 ^{*2 *3}	ステップ2完了後2年以内 ^{*2}	未定	ステップ2完了後30～40年後を目標 ^{*2}	検討中	検討中
	東京電力 福島第一-2	78.4		ステップ2完了後2年以内 ^{*2}			検討中	検討中
	東京電力 福島第一-3	78.4		2014年末			検討中	検討中
	東京電力 福島第一-4	78.4		2013年11月18日～開始			検討中	検討中
東海-1	16.6	解体中	1998年5月28日～2001年3月29日	2019年度	2025年度	東海発電所の廃止措置で発生する撤去物のうち、2005年の法令改正により導入されたクリアランス制度に基づき、国により安全が確認されたものを、一般の金属撤去物と同様に資源として有効活用するための再生加工に向けた搬出を2007年より実施。クリアランス金属の再生加工の対象となった金属は溶解等を行って、鋳造品や鉄筋等に加工し、当社及び原子力関係機関、原子力関連施設等で活用。これまでのクリアランス金属の再利用実績としては、以下のものがあげられる。 ・遮へい体※(※J-PA RC(高エネルギー研究所)大強度陽子加速器施設向け) ・車両の進入を防止するためのブロック ・ベンチ ・テーブル ・ブロック(舗装材用)等		

*1 廃止措置の最終段階が2028年から始まる。

*2 2011年12月16日 原子力災害対策本部政府・東京電力統合対策室がステップ2完了を公表。2011年12月21日 政府・東京電力中長期対策会議にて制定。2012年7月30日改訂。

*3 中長期ロードマップにおける工程・作業内容は今後の現場状況や研究開発成果等によって変わり得るものであり、これらを踏まえ、継続的に検証を加えながら見直していくこととしている。

核燃料サイクル施設

国名	核燃料サイクル施設名	年間製造能力(tHM/y)	廃止措置の現状	廃止措置の主要プロセスの実施済み年月または実施予定年月		クリアランス物(金属・コンクリート等)への再利用の有無	解体完了の場合、土地の再利用の有無
				除染開始	解体完了		
ベルギー	ベルゴニュークリア社 デッセル MOX/MOF 燃料製造工場	35～40	解体中	2009年3月	2014年(予定) (現在90%完了)		
フランス	AREVA NC社 カグラッシュ MOX 燃料製造工場	40	解体中				
米国	AREVA NP社 リンチバーク燃料加工工場	700	解体中				